

報道関係者と民博との懇談会

話題一覧

2025年1月16日(木)15:30~17:00

懇談会

1. 挨拶

— 吉田 憲司 (館長) —

2. ニュースリリース

●みんなの最新情報と今後3カ月の行事をご案内いたします。

— 山中 由里子 (議長) —

3. みんなの創設50周年記念国際シンポジウム

「22世紀のミュージアム —未来のコミュニケーション空間を創造する—」

[詳しくはこちら](#)

情報技術は、博物館でどのように活かされ、博物館をどのように活かしてくれるのか。時間と空間、コミュニケーションをキーワードに「メディアとしての博物館」の未来のかたちを語り合う。

日 時：2025年3月8日(土)13:30~17:00(13:00開場)、
9日(日)9:30~17:00(9:00開場)
会 場：本館 みんなのインテリジェントホール(講堂)
主 催：国立民族学博物館
定 員：400名(要事前申込み/先着順)※オンライン配信500名
参加費：無料
申込期間：3月5日(水)まで



— 宮前 知佐子 (人類基礎理論研究部 助教) —

4. みんなの映画会

[詳しくはこちら](#)

『セールス・ガールの考現学』(みんなのワールドシネマ)

絵を描くことが好きであるにもかかわらず、親が勧めるままに原子力工学を学ぶウランバートルの女子大生サロール。バイト先のアダルトグッズ・ショップの女性店主と友情をはぐくみ、人として成長してゆく姿を描きます。

日 時：2025年2月24日(月・祝)
13:30~16:40(受付・開場12:30)
会 場：本館 みんなのインテリジェントホール(講堂)
解 説：島村一平(本館 教授)
司 会：黒田賢治(本館 助教)
定 員：350名(要事前申込み/先着順)
参加費：要展示観覧券(イベント参加費は不要)
申込期間：2025年1月20日(月)~2月19日(水)



— 島村 一平 (人類文明誌研究部 教授) —

5. みんなく創設 50 周年記念企画展「点と線の美学——アラビア書道の軌跡」

[詳しくはこちら](#)

アラビア書道はアラビア文字を美しく書く手法を追求する芸術です。中東・イスラーム世界に限らず、日本や欧米においても、書に魅了された人々が千年の伝統と真摯に向き合い作品を制作しています。本企画展では日常を彩る製品をデザインする「技術」であったアラビア書道が、「芸術」として再定義された軌跡をたどります。

会 期：2025 年 3 月 13 日（木）～6 月 17 日（火）

会 場：本館 企画展示場

観覧料：一般 580 円（490 円）、
大学生 250 円（200 円）、高校生以下 無料

※（ ）は 20 名以上の団体料金、

リピーターは団体料金を適用

※本館展示もご覧いただけます



「国立民族学博物館へようこそ」とアラビア語で書かれた横断幕を制作した職人の工房（Aymon Kreil 撮影、エジプト、2023年）

— 相島 葉月（グローバル現象研究部 准教授） —

[詳しくはこちら](#)

6. みんなく創設 50 周年記念特別展「民具のミカタ博覧会—見つけて、みつめて、知恵の素」

民具とは、わが国において、日常の生活に必要なものとしてつくられ、使用されてきた造形物です。これらの民具は、研究者が旅をし、さまざまな地域の生活文化と出会いながら収集されてきました。本特別展では、民具の射程を日本から海外にまで広げ、くらしのなかの美の造形としての民具を紹介します。

会 期：2025 年 3 月 20 日（木・祝）～6 月 3 日（火）

会 場：本館 特別展示館

観覧料：一般 880 円（600 円）、
大学生 450 円（250 円）、高校生以下無料

※（ ）は 20 名以上の団体料金、

リピーターは団体料金を適用

※本館展示もご覧いただけます



木彫（神像）マレーシア

— 日高 真吾（学術資源研究開発センター 教授） —

※その他の配布資料 外国人研究員受入一覧（資料4）



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

お問い合わせ

国立民族学博物館 総務課 広報係

電話:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail:koho@minpaku.ac.jp